

⑥主要地方道市原天津小湊線坂本工区道路改良事業の一部

受賞機関 千葉県 安房土木事務所

キーワード バイパス整備、ループ橋、補強土壁、
ツーリングスポット

全建賞審査委員会の評価ポイント

急勾配かつ幅員狭小区間を解消するバイパス道路の整備事業。高さ40mを超える大規模切土や国内最大級となる高さ約55mの補強土壁の施工を、現場での品質管理の強化などを通じて完成させたことが評価された。

1. はじめに

主要地方道市原天津小湊線は、千葉県の京葉地域と外房地域を結ぶ重要な幹線道路である。

市原市牛久の国道409号との交点を起点に、夷隅郡大多喜町から君津市を通る国道465号を経由し、鴨川市天津の国道128号との交点が終点の路線である。

また、沿道は清澄寺や養老溪谷に代表される豊かな自然に恵まれ、観光道路としての機能も有している。

鴨川市に位置する「坂本工区」約2.7kmは、約1.8kmが改良済みであったが、残る0.9kmについて、約0.7km区間を平成13年に着手し約20年の歳月を掛け、令和3年9月13日に開通した。



坂本工区 開通区間航空写真

2. 事業の概要

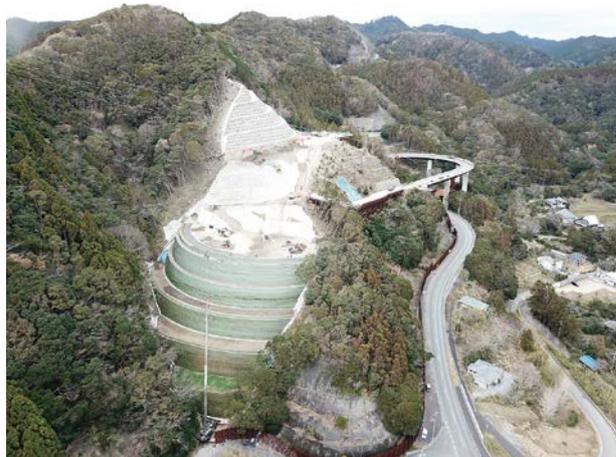
本工区の現況道路は、幅員狭小で迂曲し車両のすれ違いが困難な状況で、更には、急峻で降雨等の影響を受けやすい地形であるため、通行規制が度々発生していた。

このことから、災害に強い安全・安心なルートを確認するために、バイパス整備を行う道路改良事業に着手した。

道路構造としては、限られた道路延長約0.7kmで約44mの高低差を解消するために、県内では採用の少ないループ橋「清澄山道ループ橋」（橋梁192m、鋼5径間連続ラーメン式桁橋）を採用し、さらに擁壁高さ10mの軽量盛土、高さ40mを超える切土、国内最大級となる擁壁高さ55mの補強土壁などを組み合わせた工法を採用した。



清澄山道ループ橋上部工区施工中



高さ約55mの補強土壁施工中

3. 事業の成果

2車線のバイパスが開通したことにより、幅員狭小で車両のすれ違いが困難な区間を回避でき、災害に強い安全・安心なルートが確保され、防災力の向上が図られた。

また、快適な走行が可能となったことで、沿線の観光名所までのアクセスが大きく向上した。

4. おわりに

現在、開通区間は山あいから太平洋の眺望が広がり、格好のツーリングスポットになっている。

地元も新たな観光資源として期待を寄せている。

賛助会員 (株)鴻池組、(株)駒井ハルテック、パシフィックコンサルタンツ(株)、
宮地エンジニアリング(株)